

情報連絡員報告・9月分

忍び寄る円高の影響を懸念

～水面へ近づく製造業の「業界の景況・売上高DI」～

<東京都中央会>

9月の情報連絡員報告によると、円高の影響を懸念する報告がダイカスト工業と製粉業から寄せられている。数値的には、製造業で業界の景況・売上高のDI値が、前年同月比それぞれ-21.3、-16.9と水面へ向かって浮上していることが明らかになった。この傾向に円高がどう影響するのか、今後の動向が気になるところである。和服の業界から青年部が復活したとの報告をいただいた。元気な後継者の話題は明るいニュースだ。製造業65人、非製造業85人、計150人の集計。

<特記事項欄より>

ダイカスト工業＝円高の影響が気になりますが、全体的に景況感がやや好転している。

製粉業＝うどんは若干伸びているが、最近はパスタの生産量が減少している。円高に振れ、内外価格差も平均1.7倍となっている。

菓子製造＝依然として低価格化の流れが強く、原材料の価格上昇をどう吸収するか苦慮。原価低減対策と魅力ある独自製品の開発に注力中。

飲料製造＝株価の上昇、企業収益の改善、

設備投資が増加等々明るい見通しとは聞くが、中小企業の現状は苦しく暗い。新商品の開発も大手には追いつかない。挙げ句の果てに期待の夏は冷夏。厳しい状況です。

帽子製造＝夏の冷夏に加え、秋は厳しい残暑が続き9月の秋物の売れ行きは芳しくありません。

和装裁縫＝協同組合組織内の青年部が一時は活動停止の状態にあったが、今年度役員改選期に新部長を迎え部員15名の新生青年部が誕生した。低迷している和裁界の危機感をバネに、活動の系

口にしたいということで今後に期待をかけている。

家具製造 = シックハウス問題等経営維持に苦しんでいる。

建具製造 = 9月期は資材共同購買事業において、展示即売会を毎年開催している関係から、売上は比較的上昇した。しかし、前年比では大きな伸びはない。

紙器製造 = 中小企業の中でも小規模企業は相変わらず厳しい。中規模以上は一進一退が続いている。

工業用ゴム製品製造 = 日銀短観は景気好転を示すも、中小・零細の事業者には実感がなく、依然厳しい経営状態が続いている。

塗料製造 = 本年度前半の業況は前年度比3%が続き低調。果たして後半回復が可能なのか？自動車、電機関連はよ

くなっているが、相変わらず建築外装、木工関連は超低調で塗料メーカーのほとんどが苦闘を続けている。

セメント製品製造 = 特定業者や特殊製品に需要が集中しはじめ自然淘汰が感じられるようになってきた。

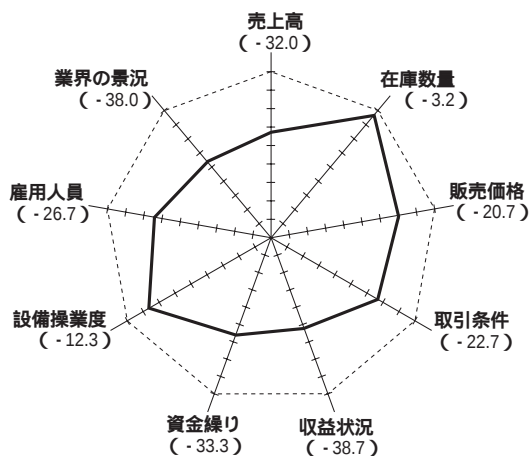
生コンクリート製造 = 10/1からの排ガス規制に対応した生コン価格の引き上げ前にユーザーの駆け込み引き合いが発生している。

< 要望事項欄より >

* 中途半端な景気対策でなく、本当に消費が回復するような景気回復策を望む。 [菓子製造・水産物加工]

* 中小企業庁が我々中小企業に対しての色々な支援を発表したが、あまりにも正論すぎて具体案が見えない。それぞれの業態にあった支援をお願いしたい。 [帽子製造]

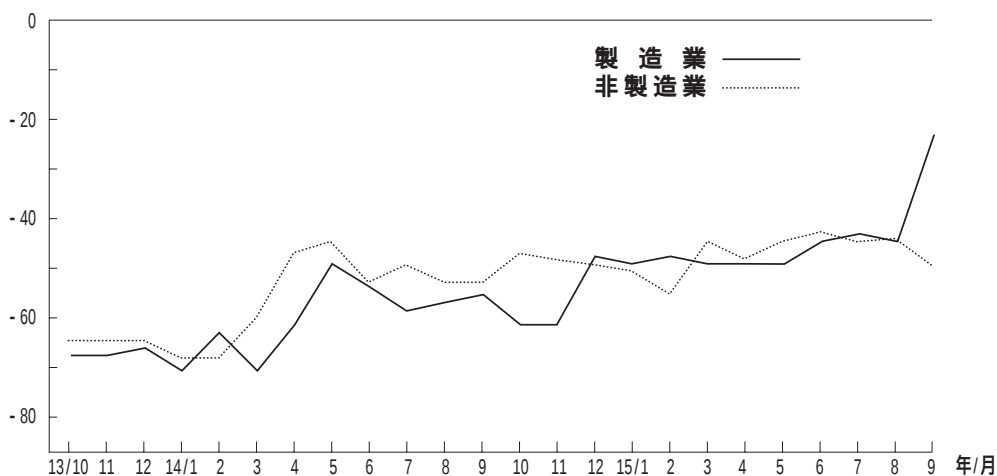
9月のレーダーチャート（全産業、前年同月比DI値）



(注)点線の9角形が「DI = 0」を示す。したがって、点線の内側は「減少」「低下」「悪化」、外側は「増加」「上昇」「好転」となる。

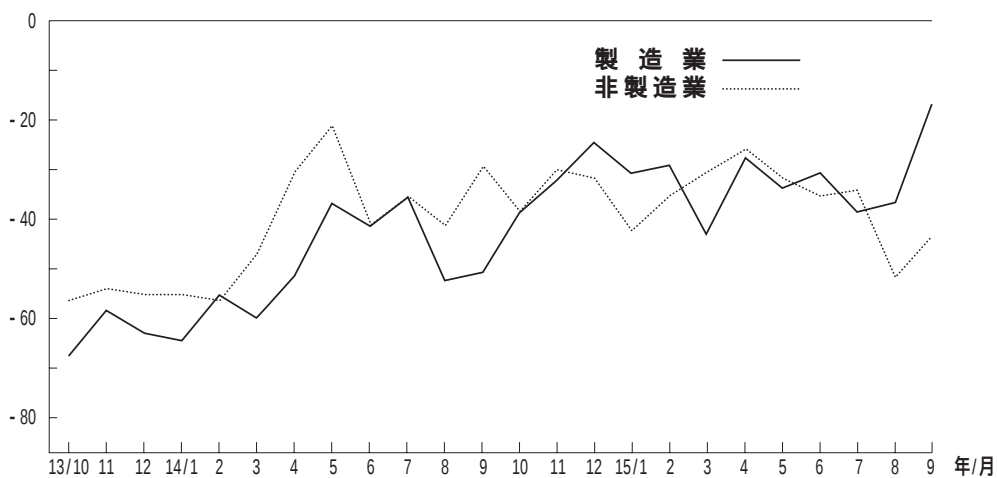
業界の景況DIの変化（H13.10～H15.9）

（前年同月比）



売上高DIの変化（H13.10～H15.9）

（前年同月比）



(注)DIとは、デフュージョン・インデックスの略で、前年同月に比べ「増加」・「上昇」・「好転」したとする割合から「減少」・「低下」・「悪化」したとする割合を差引いた値である。